

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	33人	算数	33人	理科	33人
第5学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

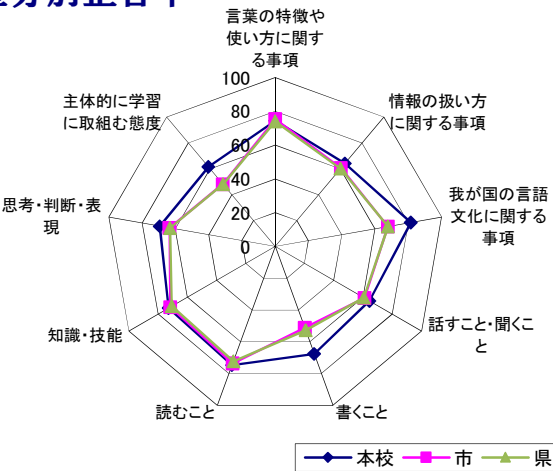
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.4	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	64.2	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	81.5	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	64.4	61.0	60.7
	書くこと	67.6	51.2	52.8
	読むこと	74.7	73.7	72.4
観点	知識・技能	72.8	71.7	70.6
	思考・判断・表現	69.4	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	61.5	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

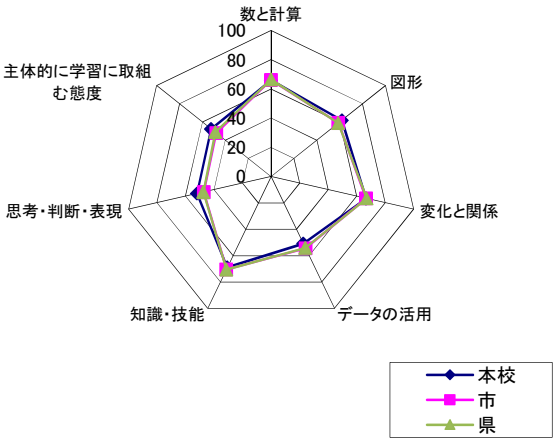
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県の平均と同程度である。 ○第4学年に配当されている漢字を読む問題においては、いずれの設問でも正答率が90%を越えている。 ●どの言葉がどの言葉をくわしくしているか(修飾語)の設問において、県の平均を下回っている。	・当該学年までに習った漢字は概ね習得できていると言えるので、今年度新しく学習する漢字も含めて、今後も定着を図っていく。 ・主語・述語・修飾語など言葉の学習の充実を図る。一斉授業で児童に理解を促すだけでなく、AIDリル等も使い、理解したことを定着できるようにしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県の平均を4ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方の設問については、平均正答率が県の平均を4.9ポイント上回っている。 ●説明文において情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問においては、県平均を1.2ポイント下回っている。	・情報と情報との関係について理解を深めるためには、書くことや読むことにおいて、文章全体の構成を考えて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえたりするなど、関連を図りながら指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は県の平均を13.7ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を問う設問において、県の平均を10ポイント以上上回っている。	・普段の生活の中で「ことわざ」や「慣用語」「四字熟語」に触れる機会を増やすとともに、朝の会や国語の授業中などにも、暗唱したり意味について調べたりする学習を設定していく。また、「ことわざ」については、スタンダードダイアリーにも、一覧表になって載っているのを活用し、さらなる定着を図りたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を3.7ポイント上回っている。 ○話し手の工夫を捉える設問においては、平均正答率は92.6%で県の平均と同程度である。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える設問においては、県の平均を5.1ポイント下回っている。	・「聞く」学習では、細かい部分までよく聞いてメモする力だけでなく、話し手の話の中心は何か、伝えたいことは何かを考えさせるような指導をしていく。また、「書く」授業にも関連させて、作文や話に題名を付けさせるなど、学習活動を工夫していく。
書くこと	平均正答率は県の平均を14.8ポイント上回っている。 ○文章の長さや段落の構成など、指定された条件で文章を書いたり、内容の中心を明確にして事実を伝える文章を書くなど、いずれも県の平均を上回っている。	・「書くこと」の学習においては、児童に書くことの機会を多く設定していくことにより、さらに書き慣れさせていきたい。 ・指定された条件で書いたり、事実と意見を分けて書いたりする力が付いてきているので、今後も「書く」力を伸ばしていきたい。
読むこと	平均正答率は県の平均を2.3ポイント上回っている。 ○物語文において、文章を読んで感じたことを捉える設問においては県の平均を9.8ポイント上回っている。 ●物語文において登場人物の気持ちや性格について、叙述を基に捉える設問で県の平均を下回っている。また、説明文において、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問においては県の平均を1.2ポイント下回っている。	・物語を読むことの学習においては、登場人物の心情や人物像を捉えられるように、場面ごとの詳細な読み取りだけでなく、全文を視野に入れ、場面と場面の移り変わりと登場人物の気持ちの変化を関連させながら読み取らせるなど学習活動を工夫していく。 ・説明文を読むことの学習においては、言葉一つ一つに着目して読むだけでなく、段落相互の関係を捉えながら話の全体を俯瞰して読む力も身に付けられるように指導していく。

宇都宮市立東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.9	66.1	66.4
	図形	61.9	58.9	58.8
	変化と関係	66.7	66.6	67.0
	データの活用	50.9	54.4	54.2
観点	知識・技能	68.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	51.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	52.4	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

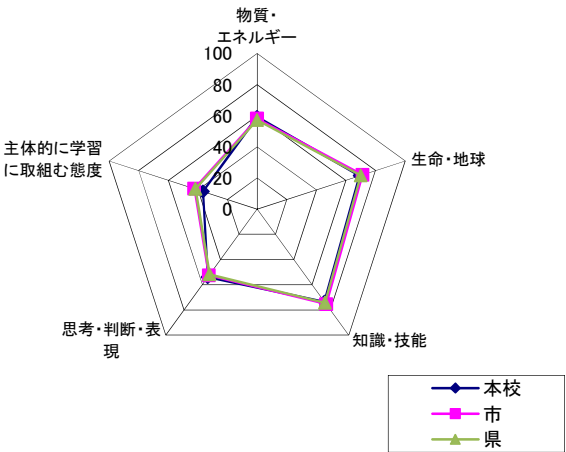
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と同程度である。 ○四則混合計算の問題では、県の平均を9.7ポイント上回っている。 ●分数、簡単な場合についての割合、概数の問題については、県の平均を下回っている。	・分数、概数、割合の仕組みを理解して計算することができるよう子供同士で説明し合う活動や練習問題に繰り返し取り組むなど、定着を図っていく。
図形	平均正答率は、県の平均を3.1ポイント上回っている。 ○面積の問題では、教室のおよその面積を選択する問題で18.5ポイント、面積の単位関係の問題で14.1ポイント、県の平均を上回っている。 ●直方体のある面に平行な辺を問う問題では、県の平均を13.1ポイント下回っている。	・図形を用いて自分の考えを説明する力を高めるために、図で表す活動や、図を読み取る活動を積極的に取り入れるとともに、学習したことを復習する機会をより多く設ける。 ・立体の学習では、立体図形を用いるなど、作業的・体験的な活動を通して理解・定着を図っていく。また、ICTを積極的に活用し立体を可視化させることにより、立体への理解を深めていく。
変化と関係	平均正答率は県の平均と同程度である。 ○伴って変わる数量の関係の問題では、2問とも県の平均を若干上回っている。 ●図を使って基準量を求めるため立式する問題では、県の平均を7.8ポイント下回っている。 ●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題では、県の平均を6.7ポイント下回っている。	・図と式との関係を理解できるようにするために、学習の導入時に図や表をもとに考える学習を取り入れたり、図や表をもとに自分の考えを整理したりする活動を取り入れていく。 ・日常生活と学習内容が結び付くよう、生活の様々な場面において、伴って変わる2つの数量があることに気付かせ、着目させていくようにする。
データの活用	平均正答率は県の平均を3.3ポイント下回っている。 ●折れ線グラフから変わり方を読み取る問題では、県の平均を7.6ポイント下回っている。 ●二次元表の読み取り方の説明を記述する問題では県の平均を5.8ポイント下回っている。	・折れ線グラフ、二次元の表の読み取りについては、算数の時間だけでなく理科や社会・総合的な学習の時間など、教科を横断的に取扱い、グラフに慣れ読み取れるようにしていく。

宇都宮市立東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.3	58.1	57.2
	生命・地球	69.3	71.1	70.0
観点	知識・技能	73.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	54.0	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	36.6	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は県の平均を2.1ポイント上回っている。 ○「物のあたたまり方」では、水、金属、空気の3つの性質に関する設問について、県平均を上回っている。また、「電気のはたらき」の電流の向き、「物の体積と温度」のおんどによる空気やものの変わり方についての設問では、県の平均を大きく上回っている。 ●「水のすがた」出は、「水の量のちがいと沸騰する温度との関係について記述する」ことや「湯気は液体である」とのへの理解について、県平均も低い、それより8ポイント程度低い。	・仮説を立てて、実験や観察を行ったり、学んだことを活用して身近なおもちゃや道具の仕組みについて考えたりする機会を意図的に設定し、学習内容の定着に努める。 ・実験の結果をグラフにや図、絵などに表現することを通して、理解を深めていけるよう指導する。また、自然界や生活との関連を図りながら具体的な事象について取り上げていく。
生命・地球	平均正答率は県の平均と同程度である。 ○「1年間の植物の成長」では、正答率も高く県の平均を上回っている。特に、季節とサクラのようすの関係については、県平均を21ポイント上回っている。 ●「天気のようにすと気温」では「記録温度計の記録から天気の変化を推測する」、「月と星」では「半月の一日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断する」の正答率は、県平均も低い、それを下回っている。	・他教科との関連を図り、身近な自然現象について意図的に考えさせたり、既習事項や生活経験を基に予想や仮説を考えさせたりするなど、自分たちの生活と環境との関わりを捉えられるように指導していく。 ・天気や天体などの学習については、授業だけでなく宿泊学習や家庭学習との関連を図ったり、ICTを効果的に活用したりするなどして、学習内容の定着を図っていく。

宇都宮市立東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」では、県の肯定的回答を5.4ポイント、「家で、学校の授業の予習をしている」では、県の肯定的回答を13.5ポイント上回っている。計画性をもって予習に取り組み、分かりづらいと感じる部分を把握した上で、授業に臨む児童が増えてきたことが伺える。

○「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」では、県の肯定的回答を11ポイント上回っている。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」では、県の肯定的回答を9.4ポイント上回っている。学習に対する意欲が高い児童が多いと言える。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の肯定割合は、96.3%と県の平均より7.3ポイント上回っている。教育活動の制限緩和やICTの効果的な活用により、さらに活動の幅が広がったことで、家庭や学校生活に充実感を得ることができている児童がさらに増えたことがうかがえる。

○「毎日、同じくらの時刻に寝ている」の肯定割合は、92.6%で県の平均を11.3ポイント上回っている。また、「早寝、早起きを心がけている」では、肯定割合が96.2%と県の平均を18.8ポイント上回っている。さらに、平日の睡眠時間に関する質問で、「8時間以上すいみんがとれている」と回答した児童の割合が81.4%となっていることから、規則正しい生活習慣が身に付いている児童が多いと言える。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」では、県の肯定的回答を16.3ポイント上回っている。分からない言葉の意味や漢字の読み方を辞書で調べる習慣が身に付いている児童が多いことがうかがえる。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の肯定割合は、55.5%と県の平均を10.1ポイント下回っている。自分のできなかったところを理解し、できるようにすることで知識・技能のさらなる定着が図れるように、解き直しや間違い直しに取り組ませたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」では、肯定割合が51.8%となっており県の平均を8.4ポイント下回っている。自分の考えをまとめるためには語彙の豊富さが必要となる。語彙力を高めるために、読書活動を促す取り組みを進めていきたい。また、新たな知識を増やし、様々な視点で物事を見られるようにするために、話し合い活動の充実を図りたい。

●「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」の肯定割合は62.9%で、県の平均を9.8ポイント下回っている。一人ひとりのよさを認め合う場面を意図的に設定したり、個を尊重するようなプラスの言葉かけをしたりすることで、成就感や自尊感情を高めていけるようにしたい。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の肯定割合は55.5%で、県の平均を12.7ポイント下回っている。社会科においてICT、地図帳を活用した活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的に取り組み、共に学び、楽しく分かる授業づくり ②対話的で深い学びを通して思考・判断・表現力を伸ばす指導の工夫 ③基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着	①ICT（一人一台端末）の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫 ③学業指導の充実とAI型学習ドリルの有効活用	・児童質問紙「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問における肯定的回答は、4年生も5年生も、いずれも80%を下回り、県の平均も下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」では、肯定的回答が4年生も5年生も、いずれも70%を下回り、課題が見られる。	・協働的な学びの場を授業の中で意図的に組み込んでいく。	・授業場面においてペアワークなど小刻みな共有の時間の設定や、ICT（一人一台端末）を活用することにより、協働的な学びの推進を図る。 ・協働的な学びを促進することにより、児童の考えを広げたり深めたりしていけるようにすることで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。